

本校の学力・学習状況調査の結果をお知らせします

平成30年度
甲府市立北新小学校

この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態等を明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善・生活指導等に役立てることを目的としています。このたび文科省より全国的な分析結果が送られてきましたので、その概要を知らせします。

- 実施日 : 平成30年4月17日(火) (全国一斉)
対象 : 全国の小学校6年生及び中学校3年生
調査内容 : ①教科に関する問題 (国語・算数・理科)
「国語A」「算数A」: 主として「知識」に関する問題
「国語B」「算数B」: 主として「活用」に関する問題
「理科」: 主として「知識」に関する問題 と 主として「活用」に関する問題を一体的に出題
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

なお、調査に参加した本校6年生一人一人には、既に個人票・問題・解答コピーを渡しながらか個別指導を行い、学級においても答え合わせ等を行っています。また、個別懇談において具体的に課題や成果について説明していく予定です。

分析結果について (全国・県との比較を通して)



1 本校の概況

本校の参加児童: 6年生28名 (欠席児童なし)

本校の結果は、国語A、算数A、理科では、全国平均・県平均を上回りました。国語Bでは、全国平均をわずかに下回りましたが、県平均とは同等でした。算数Bでは、全国平均をわずかに下回りましたが、県平均を上回りました。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもありますように、全国正答率の±5%の範囲にある場合は、全国平均とほぼ同等であると考えています。

2 本校の主な課題

国語

国語A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う」趣旨の設問で、慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する設問の正答率が低い。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問の正答率が低い。

国語B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」趣旨の設問で、本を読んだ理由の説明として適切なものを選択する設問の正答率が低い。
- 「推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える」趣旨の設問で、【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する設問の正答率が低い。

算数

算数A 主として「知識に関する問題」からみえた課題

- 「 180° の角の大きさを理解している」趣旨の設問の正答率が低い。
- 「 180° や 360° を基に分度器を用いて、 180° よりも大きい角の大きさを求めることができる」趣旨の設問の正答率が低い。

算数B 主として「活用に関する問題」からみえた課題

- 「合同な三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだす」趣旨の設問で正答率が低い。
- 「示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現する」設問で正答率が低い。

理科

- 「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」趣旨の設問で正答率が低い。
- 「より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる」趣旨の設問で正答率が低い。
- 「乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる」趣旨の設問で正答率が著しく低い。
- 「実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる」趣旨の設問で正答率が低い。



3 教科における主な改善点

国語

- 漢字練習、漢字の構成、漢字辞典の活用、同訓異字などの漢字学習を行うとともに、日常生活の中で慣用句を使う機会を増やす。また、日常的に文や文章の中で適切に使うことが重要であるので、書いた文章を読み返し、正しく使用しているかどうか振り返るように指導する。
- 相手の話の目的や意図を捉えながら内容を聞き取るとともに、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し自分の考えをまとめられるように指導する。
- 目的や意図に応じ、取材した複数の内容を整理して記事を書く活動を行うとともに、自分の強く伝えたいことを補うよう記事の目的に応じて適切に引用し、ある程度まとまった文章を書く活動を行う。
- 読むことに関して、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む指導を重視し、引き続き、地域・家庭とも連携し、読書活動の充実を図る取組をさらに進める。

算数

- 計算の結果を見積もり、計算の仕方を考え、結果を振り返って確かめる活動の充実や、式の意味を適切に解釈できるようにするための指導の充実を図る。
- さまざまな学習の中で、理由を話し合うなどの学習活動を通して、児童に自分で気付かせるような活動を取り入れて授業を作っていく。
- 図形の性質を基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することができるように指導する。
- 事前に見通しを立てたり、事後に振り返ったりする学習を授業の過程に位置づけ、より深い理解を生み出すようにする。
- 家庭と連携しながら、「つなげる算数」「家庭学習の手引き」などを活用し、家庭学習の定着を図る。また、授業と家庭学習とを連携させて学習できるよう授業の展開を工夫する。
- 問題を解いた後、児童自ら、数値や形などの条件を変えて、発展的に考察する活動を設ける。(家庭学習の活用)

理科

- 実験・観察を充実させるとともにその結果に対して、変化とその要因とを関連付けて考える活動を充実させる。その際、器具の操作の意味を捉え、適切な使い方を理解させる。
- 学習で獲得した知識を実際の自然や身の回りの事物・事象に当てはめて考える思考過程を言葉で整理したり確認したりする活動の充実を図る。



4 質問紙調査の主な特徴

【児童の自己肯定感等】

- 「自分には、よいところがある」という設問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は、92.9%と、全国・県よりも高い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」という設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、89.3%と、全国・県と同程度である。

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、100%と、いじめへの認識は高い。

【基本的生活習慣】

- 「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」「どちらかといえばしている」と回答している児童の割合は、82.2%と、全国・県ともに90%以上に比べると、かなり下回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」と回答している児童の割合も、全国・県を下回っている。

【授業以外での学習・家庭での生活に関連】

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を上回っているが、『全くしない』と回答している児童の割合も上回っている。
- 「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国を上回り、県と同程度である。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」の設問に対して『3時間以上』と回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。一方、『全くしない』と回答している児童の割合も、全国・県を上回っている。そのうち、『1時間以上2時間より少ない』の回答が一番多く、42.9%であった。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の設問に対して『全くしない』と回答している児童の割合は、全国・県を下回っている。一方、『10分より少ない』と回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「放課後に何をしてお過ごしが多いですか」「週末に何をしてお過ごしが多いですか」の設問に対して、いずれも『習い事をしている（スポーツに関する習い事を含む）』と回答している児童の割合は、全国・県よりを上回っている。また、『家族と過ごしている』と回答している児童の割合は、全国・県と同程度である。
- 「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」の設問に対して『全くしていない』と回答している児童はいない。



【地域や社会と学校の連携・協働】

- 「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対して『当てはまる』と回答している児童の割合は、全国、県を下回っていて、『当てはまらない』と回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「新聞を読んでいますか」「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。

【学習に対する関心・意欲・態度（算数）】

- 「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いませんか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県をわずかに下回っている。
- 「算数の内容はよく分かりますか」「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国を上回り、県と同程度である。
- 「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の設問に対して『当てはまる』と回答している児童の割合は、全国・県を大きく上回り、『どちらかといえば、当てはまる』と回答している児童の割合を含めると、全国を上回り、県と同程度である。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を下回っている。



【学習に対する関心・意欲・態度（理科）】

- 「理科の勉強は好きですか」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県と同程度である。
- 「理科の勉強は大切だと思いますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国を下回り、県を大きく下回っている。

- 「理科の内容はよく分かりますか」の設問に対して『当てはまる』と回答している児童の割合は、全国・県ともに大きく上回り、肯定的に回答している児童の割合は、全国を上回り、県と同程度である。
- 「5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。
- 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を大きく上回っているが、職業に就きたいと思う児童の割合は、39.3%と低い。

【学習に対する関心・意欲・態度】

- 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国を上回り、県と同程度である。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の設問に対して肯定的に回答している児童の割合は、全国を下回り、県を大きく下回っている。



【調査問題の解答時間】

- 「調査問題の解答時間は十分でしたか」の設問に対して
 - (国語A) 肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を大きく上回っている。
 - (国語B) 肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を大きく下回っている。
 - (算数A) 肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を大きく上回っている。
 - (算数B) 肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を上回っている。
 - (理 科) 肯定的に回答している児童の割合は、全国・県を大きく上回っている。

5 質問紙調査からの改善点

- ◇今後とも、「早寝・早起き・朝ご飯」を基に、基本的な生活習慣の定着・維持について各家庭と連携して推進する。
- ◇自主的・主体的活動の機会を大切にして充実感や達成感を与え、自己有用感や自信をもたせる指導を重視する。
- ◇道徳や学級活動の指導の中で、日常生活と関わらせながら規範意識の伸長に努める。
- ◇学習したことが自己の成長にとって有益になることを実感を伴って経験させたり考えさせたりして、学習活動への意欲を高める指導に努める。
- ◇調査問題の回答時間について、「国語B」では、肯定的に回答している児童が少なく、無解答率の高い問題も多いことから、文章を読み取り、自分の考えを書く時間が足りなかったと思われる。自分の考えをまとめて話し合いに臨んだり書いたりする機会を大切にするとともに、その成果がよりよい生活・学習成果に結びついたということに気付くことができるよう指導計画を改善していく。
- ◇今後とも、児童がはっきり意識できるように目標（めあて・ねらい）やまとめをわかりやすく板書し、ノートにまとめさせる活動を設定する。さらに、児童と教師が目標（めあて・ねらい）を一緒に設定・確認し、一緒に学習を振り返っていく授業展開を重視する。また、授業の最後に書いている「学習感想」も、学習内容を振り返るための大切な活動であることを伝えていく。
- ◇家庭学習への意識が高まっていることがうかがえる一方、復習をしている状況が芳しくないことから、「家庭学習の手引き」（10のステップ）などを中心に、家庭学習の内容についても個々の課題にあった内容に取り組むように指導していく。
- ◇地域への関心が高いことがうかがえる。今後も様々な学習活動の中で、より広い視野を持って、自己の考えを持てるよう励ましていく。

終わりに

本校の児童は落ち着いた雰囲気の中で、毎日の授業に一生懸命に取り組んでいます。

この結果についてはあくまで平均値によるものであり、数値の高低だけで判断できるものではありませんが、この機会に生活習慣や学習時間等を振り返り、各家庭においても具体的に取り組んでいただきたいと考えます。この先にある中学校生活・高校生活等も含めた進路を見据える中で、それぞれの児童の良さを認めながら、家族で将来の夢や目標等について話し合う機会をもっていただきたいと考えます。

学校でも上記の結果をもとに、さらに指導に力を入れ、よりよい家庭学習のしかたについて指導したり、児童自らが自主的に学習に取り組むことができるように働きかけたりしていきたいと考えます。各ご家庭におきましても家庭学習の習慣が定着できるよう学習環境を整える等、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

